

35-4 有明海干潟の形成過程に関する基礎的研究

沿岸域環境科学教育研究センター	教授	滝川 清
環境システム工学科	助教授	山田 文彦
技術部環境建設技術系	技術官	外村 隆臣
神戸市立工業高等専門学校	助手	柿木 哲哉
国土交通省九州地方整備局		谷口 正浩
日本海洋コンサルタント		西本 賢二

本研究では、干潟地形変化のメカニズムを把握することを目的として、白川河口域での現地観測にて地盤高測量による地盤高短期変動及び底質の粒度分析を行い、地盤高変化の外的要因である気象・海象等との相互関係を調べ、さらに、エネルギー平衡方程式を用いた波浪解析での検討を行った。その結果、地盤高は夏季には堆積傾向、冬季には浸食傾向が顕著であることが明らかとなり、浸食傾向が見られた冬季においては、夏季に比べて1 mを越える波浪の出現割合が多いことが判った。底泥の粒度試験結果から、変動量の大きい個所では、表層部における細かい土粒子が約30%（シルト分は約20%）以上分布しており、干潟地形変化の因子になると考えられる。また、波浪解析の結果から、波高分布および碎波点の違いにより、冬季においては白川河口左岸の方がより波浪の影響を受け、侵食されることが判った。

（平成13年度土木学会西部支部研究発表会講演概要集 pp.B-46-47, 2002年3月）